

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)林テレップ開発棟	階数	地上2階
建設地	愛知県豊田市亀首町町屋洞100-2	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	15人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,080時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 予定	評価の実施日	2018年6月29日
敷地面積	5,745 m <sup>2</sup>	作成者	佐野勢史
建築面積	2,590 m <sup>2</sup>	確認日	2018年7月2日
延床面積	3,083 m <sup>2</sup>	確認者	鷹野陽平



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.9**

#### ③敷地内の緑化

**1.0**

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)

10.1 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

#### ②資源の有効活用

**3.3**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.7</b>	
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔		約20年を想定。								
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>				4.6	0.48				4.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			有効高さ6.0m以上確保。	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			200.86m <sup>2</sup> /2494.52m <sup>2</sup> =0.08	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			1F床荷重設定19,600N/m <sup>2</sup> 2F床荷重設定4,900N/m <sup>2</sup>	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性		②		4.0	0.38				
1 空調配管の更新性			WC床下配管ピット設置。	3.0	0.17				
2 給排水管の更新性			工場内電気ケーブルは露出設置。	4.0	0.17				
3 電気配線の更新性			工場内電気ケーブルは露出設置。	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			工場内電気ケーブルは露出設置。	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			工場内電気ケーブルは露出設置、配管配線引込みピット設置。	5.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57				1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.5
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			対象建物全体が工場用途。	5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				2.5	0.29				2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				2.0	0.50				
集合住宅の評価					-				
4.1 モニタリング					-				
4.2 運用管理体制					-				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.2
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.63				2.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	-				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.28				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.28				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.34				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	工場用途より機械設備は露出設置。	4.0	0.34				
3 汚染物質含有材料の使用回避				5.0	0.22				5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			指定有害物質を含まない材料を使用。	5.0	1.00				
3.2 フロン・ハロンの回避					-				
1 消火剤					-				
2 発泡剤(断熱材等)					-				
3 冷媒					-				
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	耐久性の高い建材を採用。	3.9	0.33				3.9
2 地域環境への配慮				3.6	0.33				3.6
2.1 大気汚染防止			燃焼器具の配置無し。	5.0	0.25				
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	工場用地内は指定車両以外入場禁止。	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33				3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				5.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害になる光漏れ無し。	5.0	1.00				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-				

**重点項目スコアシート**  
(仮称)林テレンプ開発棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:10.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮しつつ、工場機能の要求性能を確保する。
Q1 室内環境	建物全体工場用途。
Q2 サービス性能	生産製品の変化に伴い、生産機械類の変更に対応できるよう、基本的なインフラの自由度を確保する。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境への配慮、敷地境界からの距離を確保し、緑地による干渉帯を確保。
LR1 エネルギー	建物全体工場用途、建物におけるエネルギー消費を抑えた計画とした。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル可能な建材を中心に建物を構成した。
LR3 敷地外環境	周辺環境への配慮、敷地境界からの距離を確保し、緑地による干渉帯を確保。
その他	周辺環境へ配慮した外観と、企業環境に配慮した整備を行う。